

若手層に活躍の場を

同窓会会長 有田 和男 (31回)

*はじめに・・・・・

この4月28日に開催されました役員総会にて、会則・第12条の規定により会長の選出が行われ、私が引き続き会長職の重責を担うことになりました。同窓会を取り巻く内外の厳しい現実と直面して、同窓会として如何に対応すべきか、如何に皆様のご期待にそうべきか、身の引き締まる思いであります。

時代は刻一刻と多様な変化をもって進展しています。皆様には機会がある毎に申し上げていますが、皆様の卒業した時代背景、或いは卒業した年次とその取り巻く環境によって、母校と同窓会に対する見方・考え方・接し方に温度差が顕著に現れて来ているように思えます。

これが今後の同窓会運営に微妙な影響を与え、運営の難しさをも実感させられています。このことを念頭に、これに対処できる組織・体制を整えなければと考えています。

この2年間は、こうした現状認識を新たにして、若手層の増加をも視野に入れ、次代の方々に同窓会に親しみを持って頂き、そして活躍が出来る場をと、執行部役員・委員に意識して若手層の起用を行わせて頂きました。

今後は、同窓会として見直すべきことは大胆に見直し、同窓会を更に活性化させたいと願っています。皆様方のご理解とご協力を切に願うものであります。

*夏の会員総会について・・・・・

この8月28日(土)に、今年の会員総会を開催することに決定しました。年に1回の会員総会の開催は如何にあるべきか、この数年間は新しい試みを行ってきました。皆様方にも、会員総会は如何にあるべきかを問い掛けてきました。

皆様方の多くのご意見は、同窓生が母校と同窓会に直接的に親しむことが出来るのは、会員総会と会報「甲陽だより」しかない。同窓会の存在意義を考えれば、それなりの費用負担があっても開催を継続すべきだ。との多数のご意見を頂戴しました。

今年も、会員総会運営委員会で、委員の方々にお知恵を出して頂き、ご苦勞をお掛けしながら、一歩進んだ形で新しい会員総会が開催できる運びとなりました。

年に1回の会員総会を盛り上げようと努力される関係者の姿に、唯々感謝あるのみです。皆様には、それぞれご予定があらうかと思いますが、皆様お誘い合わせて一人でも多くのご参加を切望しています。

*奨学金制度について・・・・・

この制度が、1億円の拠金を目標に発足して、一つの節目である5年目を迎えました。現在の拠金総額は5,000万円に近づいています。しかし、目標の半ばにも達していません。

毎年の「ファンド委員会」の皆様には、それは過重なご苦勞とご負担をお掛けして、前向きに頑張っているのですが、現在は何か足踏み状態のように思えてなりません。

この打開を、この2年間で拠金活動と制度面も含めて、常務理事会とともども行いたいと考えています。

*時に思うこと・・・・・

傘寿を前にして甲陽時代の仲間と、過ぎにし日を語り合う機会が多くなりました。話の究極は「人間形成の原点は、人間の生き方を純粋に考えた甲陽時代にあった。」に行き着きます。年齢もあって「少子高齢化問題」も話題となります。

特に、少子化傾向には、人口の減少は大きく日本の衰運を招く。我が国の将来が危ぶまれる。もう傘寿の吾々には、残念なことに少子化解消には期待が出来ない。今の新政権に望む事は、短期の景気刺激ではなく、中長期的な視野に立って、出産・育児への財政投入策の積極的な実施をと、これが新雇用を生み新産業の育成を助長する。との意見になります。

更に、親が子を、子が親を損なう風潮を嘆き、吾々の時代は少なくとも家庭生活の中で、親の慈愛を感じ、親への感謝を教えられなくても自然に体得した。学校生活では、人との出会いの大切さを学び、友情を自然に育んでいった。電化製品の発達による生活環境の便利さが、スーパーなどで出来合の食べ物を買えるなどの苦勞の無さが、だんだんと家族の絆を損なってきたのではないかと。新しい修身・倫理の再構築が必要だとの結論に行き着きます。そして傘寿になっても世の中の出来事にもっと敏感であれ！がモットーとなっています。

甲
陽
だ
よ
り

発行所

〒662-0096 西宮市角石町3-138

甲陽学院同窓会

発行人 有田和男

印刷所

株式会社 小西印刷所

西宮市今津西浜町2番60号

TEL (0798)-33-0691

同窓会事務局専用

TEL 0798-71-4888

(月・水・木 10:00~16:00)

FAX 0798-71-4890

E-mail:

fvgp1650@mb.infoweb.ne.jp

今すぐご予約を!

夏の恒例会員総会

8月28日(土) 14時~17時半 於: ノホテル甲子園

— 詳細は 16 ページに —

会 務 報 告

平成21年度の会務につきまして、平成22年 4 月28日に開催されました役員総会の議事内容にしたがって概略をご報告いたします。

1 各委員会活動について

a. 会報編集委員会

第80号を平成21年 7 月18日付で発行。紙面は巻頭言・学校だより（石川校長退任、山下校長就任、中学校校外学習、創立記念音楽会）・リレー随筆・会務報告・ファン関係・会員だより・会員総会案内などでした。

第81号を平成22年 3 月 5 日付で発行。紙面は巻頭言・ファン関係・学校だより（大川教頭挨拶、甲関戦、同窓生講演会）・会務報告・リレー随筆・中村元校長ほか恩師の訃報・会員だよりなどでした。

b. 会員総会運営委員会

平成21年 8 月29日（土）の午後 1 時から 4 時30分まで、ノボテル甲子園におきまして、恒例の夏の会員総会を挙行しました。当日は、学校法人の辰馬章夫理事長、母校の山下正昭校長、妙島秋男副校長、大川貴史教頭にもご出席いただきました。

第 1 部は 1 階「鳴尾の間」にて式典と講演会。今回はゲストスピーカーとして一心寺の高口恭行長老（40回）をお招きし、「一心寺で考えたこと」と題して、スライドを使った 1 時間あまりのご講演をいただきました。ご講演の後、文化プロデューサーの河内厚郎氏（52回）とのミニ対談も行われました。

第 2 部は、会場を 2 階「甲陽の間」に移して懇親会。乾杯後は懐かしい恩師の先生方や友人との会話、白鹿の美酒とサントリーのウイスキー・ビールに酔いました。ホームカミングデーの40回生、55回生、65回生の皆さんの紹介があったあと、望洋会（高商・工専同窓会）の皆さんを中心に『吾が愛する母校に寄する哀歌』を大合唱しました。この歌はこの日のために讃井正敏氏（高商 3 回）が作詞されたもので、「高校三年生」のメロディーに乗せて参加者全員で歌いました。さらに高等学校校歌（嗚呼青春の）、学院歌（大地のほてり）を斉唱したあと、川瀬秀和氏（44回）のリードでエールを交わし、お開きとなりました。

当日の参加者は約220名でした。

c. 甲陽ファン管理委員会

4 頁に記載の内容です。

d. 同窓会公式ホームページについて

3 頁に記載の内容です。

2 平成21年度決算報告について

当年度の決算については、4 頁に掲載の決算書が報告され、監事からの監査報告を受けて、承認されました。

3 平成22年度の活動方針と予算について

平成22年度の活動方針として、次の各項が承認されました。次に、その予算として 4 頁の予算書が承認されました。

a. 会報編集委員会

第82号 平成22年 7 月発行

第83号 平成22年 2 月発行

b. 会員総会運営委員会

8 月28日（土） 午後 2 時～ 5 時30分

於：ノボテル甲子園

第 1 部 講演 西田正吾氏（51回）

大阪大学 理事・副学長

c. 甲陽ファン管理委員会

受給者枠の増枠や支給額の増額、基金の運用などについて、委員会で検討

d. 同窓会公式ホームページ

新たに I T 委員会をたちあげ、ホームページ、メーリングリストの復旧、今後の充実について検討

e. 地域甲陽会、同好会などの活動を支援する。

更に、資金的な面での援助が出来るか検討をしたい。

終身会費納付額設定表（平成22年4月1日～平成23年3月31日まで）

91回～85回	30,000円	71回	37,000円	57回	23,000円
84回	50,000円	70回	36,000円	56回	22,000円
83回	49,000円	69回	35,000円	55回	21,000円
82回	48,000円	68回	34,000円	54回	20,000円
81回	47,000円	67回	33,000円	53回	19,000円
80回	46,000円	66回	32,000円	52回	18,000円
79回	45,000円	65回	31,000円	51回	17,000円
78回	44,000円	64回	30,000円	50回	16,000円
77回	43,000円	63回	29,000円	49回	15,000円
76回	42,000円	62回	28,000円	48回	14,000円
75回	41,000円	61回	27,000円	47回	13,000円
74回	40,000円	60回	26,000円	46回	12,000円
73回	39,000円	59回	25,000円	45回	11,000円
72回	38,000円	58回	24,000円	44回～	10,000円

同窓会 I T 委員会の発足について

甲陽学院同窓会では、平成19年にホームページおよびメーリングリストを立ち上げました。同メーリングリストは学年のメーリングリストと全体のメーリングリストに分かれ、学年のメーリングリストは約10学年、全体のメーリングリストは約400名の同窓生の皆様にご利用いただいております。

さて、これらのシステムの殆んどは42回卒業生の花木繁様が運営されておりましたが、大変残念なことに今年の4月、急逝されました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

殆んどお一人で切り盛りされていた花木様のご遺志を引き継ぐべく、この度 I T 委員会を立ち上げ組織的な対応ができるような体制を模索することになりました。今後の課題としては次のような点が挙げられます。

- メーリングリストの維持、管理、普及
- ホームページの再構成、甲陽だよりの P D F 化とリンクした対応
- 委員会メーリングリストの立ち上げによる会議の効率化

まだまだこれからの委員会ですが、同窓生の皆様のご意見やご協力を得ながら頑張っていきたいと思っております。

I T 委員会 梅谷幸弘 (67回)

新 役 員 の 紹 介

4月28日に開かれた役員総会において、平成22・23年度の会長の選出が行われました。席上、有田会長の再任を押し声が上がり、満場一致で有田和男氏(31回)が会長に選出されました。有田氏は3期目。また、監事については、善野史郎氏(33回)、水島昇氏(49回)、植木努氏(65回)の3名が再任されました。その後、有田会長から各役員の委嘱が行われました。その結果を掲載いたします。

平成22年度 役員名簿

役職名	回生	氏 名
名誉会長	22	平田 豊
会 長	31	有田 和男
副 会 長	高商 1	宗田 久雄
	35	中村 貞三
	42	宮崎 恒彰
	45	西村 貞一
	57	今西 昭
相 談 役	12	建内 保興
顧 問	34	横内 昭
	35	尾山 啓二
	36	田村 眞也
	41	守殿 貞夫
	55	大川 貴史
専務理事	57	箱田 光信
常務理事	29	小西 博夫
	34	水野 寛
	39	泥 光重
	45	揚野 寛
	47	山崎 仁嗣
	51	辰野 久雄
	52	河内 厚郎
	54	吉井 友実
監 事	55	森口 匡
	62	嶋吉 由喬
	67	梅谷 幸弘
	33	善野 史郎
	49	水島 昇
	65	植木 努

会報編集委員会

役職名	回生	氏 名
委 員 長	55	森口 匡
委 員	35	中村 貞三
	38	江崎健一郎
	57	今西 昭
	62	嶋吉 由喬
	67	梅谷 幸弘
	68	橋本 修吾
	72	橋本 貴博
	74	溝口 貴浩

会員総会運営委員会

役職名	回生	氏 名
委 員 長	45	揚野 寛
委 員	32	金山 二生
	33	二宮 一明
	35	中村 貞三
	39	泥 光重
	40	篠田 勝郎
	40	長谷川啓治
	41	橋本 久
	52	河内 厚郎
	54	吉井 友実
	56	土地 雅明
	57	今西 昭
	57	箱田 光信
	67	梅谷 幸弘
	69	真下 貴
	74	溝口 貴浩

甲陽ファンド管理委員会

役職名	回生	氏 名
委 員 長	31	有田 和男
副委員長	41	守殿 貞夫
委 員	29	小西 博夫
	35	中村 貞三
	41	平島 徳治
	42	大野 忠雄
	43	平井 真一
	43	渡辺 功
	44	中野 忠夫
	45	揚野 寛
事 務 局	57	今西 昭
	57	箱田 光信

I T 委員会

役職名	回生	氏 名
委 員 長	67	梅谷 幸弘
委 員	39	泥 光重
	47	山崎 仁嗣
	54	平松 新
	56	土地 雅明
	57	今西 昭
	62	渡瀬 誠
	66	鍵本 聡
	68	橋本 修吾
	69	金井 英樹

卒業生と母校、在校生を結ぶ絆 奨学金ファンドにご協力を！

毎号毎号同じようなお願いばかりで恐縮ですが、今回も奨学金ファンドへのご協力をお願い申し上げます。

このファンドは、平成17年度から募金活動を始め、翌平成18年度から母校の在校生への奨学金支給を始めました。奨学生は、定期採用6名（各学年1名）と緊急採用（中学2名まで、高校2名まで）で、その選考は母校に一任しております。現時点で、昨年度は9名の在校生に奨学金（1人年間20万円）を支給いたしました。また、平成18年度からでは延べ28名の生徒が本奨学金を受給しました。

昨今の社会・経済情勢は、甲陽の生徒・保護者にとっても決して無縁ではなく、会社の倒産、リストラ、離婚など、母校の後輩たちを取り巻く環境は、良好とばかりは言えません。本奨学金制度は、間違いなく母校と在校生にとって有意義なものとなっています。

この奨学金制度を永続させるためには、ファンド資金の充実が必要なことは申すまでもありません。将来

的には1億円に、当面の昨年度末までに醸金総額5000万円を達成したい、という目標を掲げてまいりましたが、昨年度末時点で醸金総額は約4630万円となっており、目標に達していません。

回生別の醸金者数、醸金者率を次頁に掲載いたしました。回生によりましては約50%の醸金者率になっている学年もありますが、多くの学年では数%にとどまっています。醸金方法は下の通りです。一口1万円から何口でも結構です。また、一度ならず何度も醸金下さる方も大勢いらっしゃいます。大歓迎です。なお、税法上の寄付控除の対象にはなりません。

皆様ご存じのように、母校甲陽学院には、保護者・卒業生からの寄付を募集しないという誇り高い方針があります。そんな中で、奨学金ファンドは、同窓生として母校に貢献できる数少ない機会の一つです。皆様のご協力を重ねてお願い申し上げます。

● 平成21年度 決算報告書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額	科 目	決 算 額	予 算 額	差 引 額
会 費	11,511,000	8,400,000	3,111,000	人 件 費	2,104,040	2,136,000	△31,960
年 会 費	1,193,000	1,000,000	193,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	0
終 身 会 費	2,718,000	1,400,000	1,318,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	0
新卒入会金	1,224,000	1,200,000	24,000	通 勤 費	248,040	280,000	△31,960
新卒年会費	2,856,000	2,800,000	56,000				
新卒終身会費	3,520,000	2,000,000	1,520,000	交 通 費	0	100,000	△100,000
				需 要 費	953,313	1,080,000	△126,687
会報広告料	60,000	60,000	0	通 信 費	417,196	500,000	△82,804
総会会費収入	867,000	1,500,000	△633,000	事務消耗品費	37,637	50,000	△12,363
利 子 収 入	37,101	40,000	△2,899	備 品 費	154,000	180,000	△26,000
ストラップ収入	15,600	0	15,600	IT関係費	344,480	350,000	△5,520
雑 収 入	23,000	0	23,000	会 議 費	1,988,458	2,600,000	△611,542
寄 付 金	30,000	0	30,000	会員総会費	1,209,946	1,500,000	△290,054
				役員総会費	232,218	250,000	△17,782
収入合計	12,543,701	10,000,000	2,543,701	理 事 会 費	180,474	200,000	△19,526
特別預立金繰入	0	0	0	委 員 会 費	162,856	450,000	△287,144
基本金解約				懇 談 会 費	202,964	200,000	2,964
繰 越 金	12,703,020	12,703,020	0	事 業 費	3,543,745	3,640,000	△96,255
				甲陽だより	946,191	900,000	46,191
合 計	25,246,721	22,703,020	2,543,701	郵 送 料	1,546,637	1,600,000	△53,363
				振 替 用 紙	134,662	140,000	△5,338
◎H22年3月末日現在 現預金残高明細				封 筒	188,245	200,000	△11,755
*三井住友銀行(普通預金) 13,250,583円				記 念 品	608,010	600,000	8,010
*郵便局(普通預金) 314,914円				母校後援費	120,000	200,000	△80,000
* // (振替通知票) 3,820,543円							
*三菱信託銀行(普通預金) 1,278,345円				雑 費	250,926	290,000	△39,074
*手持現金 165,154円				校 内 志	50,000	40,000	10,000
合 計	18,829,539円			慶弔その他	94,011	100,000	△5,989
甲陽F預かり金	2,433,800円			振 替 料	98,930	100,000	△1,070
甲陽ファンド通帳へ				その他 雑経費	7,985	50,000	△42,015
合 計	16,395,739円						
◎H21年度 収入件数の合計と、累計				支 出 合 計	8,840,482	9,846,000	△1,005,518
科 目	件 数	累 計		特別預立金繰入	10,500	10,500	0
寄 付 金	1件			新基本金繰入	0	0	0
年 会 費	377件			予 備 費	0	0	0
終 身 会 費	132件						
新卒終身会費	118件			支 出 総 計	8,850,982	9,856,500	△1,005,518
広 告 費	2件						
雑 収 入	3件			収入総計	25,246,721		
総 会 収 入	173件			支出総計	8,850,982		
				翌年繰越金	16,395,739		

(単位：円)

● 平成22年度 予算書 ●

[収入の部]				[支出の部]			
科 目	H22年度	H21年度決算	H21年度予算	科 目	H22年度	H21年度決算	H21年度予算
会 費	8,700,000	11,511,000	8,400,000	人 件 費	2,136,000	2,104,040	2,136,000
年 会 費	1,000,000	1,193,000	1,000,000	月 手 当	1,536,000	1,536,000	1,536,000
終 身 会 費	1,400,000	2,718,000	1,400,000	夏 冬 手 当	320,000	320,000	320,000
新卒入会金	1,200,000	1,224,000	1,200,000	通 勤 費	280,000	248,040	280,000
新卒年会費	2,800,000	2,856,000	2,800,000				
新卒終身会費	2,300,000	3,520,000	2,000,000	交 通 費	100,000	0	100,000
				需 要 費	1,080,000	953,313	1,080,000
会報広告料	60,000	60,000	60,000	通 信 費	500,000	417,196	500,000
総会会費収入	1,200,000	867,000	1,500,000	事務消耗品費	50,000	37,637	50,000
利 子 収 入	40,000	37,101	40,000	備 品 費	180,000	154,000	180,000
ストラップ収入	0	15,600	0	IT関係費	350,000	344,480	350,000
雑 収 入	0	23,000	0	会 議 費	2,600,000	1,988,458	2,600,000
寄 付 金	0	30,000	0	会員総会費	1,500,000	1,209,946	1,500,000
				役員総会費	250,000	232,218	250,000
収入合計	10,000,000	12,543,701	10,000,000	理 事 会 費	250,000	180,474	200,000
特別預立金繰入	0	0	0	委 員 会 費	350,000	162,856	450,000
基本金解約	0	0	0	懇 談 会 費	250,000	202,964	200,000
繰 越 金	16,395,739	12,703,020	12,703,020	事 業 費	3,740,000	3,543,745	3,640,000
				甲陽だより	950,000	946,191	900,000
収入総計	26,395,739	25,246,721	22,703,020	郵 送 料	1,550,000	1,546,637	1,600,000
				振 替 用 紙	140,000	134,662	140,000
				封 筒	200,000	188,245	200,000
				記 念 品	600,000	608,010	600,000
				母校後援費	200,000	120,000	200,000
				同好会後援費	100,000	0	0
				雑 費	290,000	250,926	290,000
				校 内 志	40,000	50,000	40,000
				慶弔その他	100,000	94,011	100,000
				振 替 料	100,000	98,930	100,000
				その他 雑経費	50,000	7,985	50,000
				支 出 合 計	9,946,000	8,840,482	9,846,000
				特別預立金繰入	30,000	10,500	10,500
				甲陽F預かり金繰入	0	0	0
				新基本金繰入	0	0	0
				予 備 費	16,419,739	0	12,846,520
				支出総計	26,395,739	8,850,982	22,703,020

(単位：円)

甲陽学院同窓会奨学金ファンド醸金者一覧

平成22年 1 月 1 日以降 5 月31日までにファンドに醸金くださいました方のご芳名を以下に掲載いたします(敬称略)。まことにありがとうございました。(平成21年12月31日以前に醸金された方は73号～81号に掲載しております。)

18回 今野 英一	40回 脇屋 利男	54回 小金井 彰	63回 郡田 力
20回 川島 茂	40回 鷺見 治一	54回 中村 譲治	64回 岡原 正周
27回 光野 昭	40回 竹代 正	54回 中野 茂	64回 小屋 裕司
30回 二木 通之	41回 峰尾彦一郎	55回 桜井 太郎	65回 藤 真奈武
31回 富士川真二郎	43回 相澤 繁昌	55回 御手洗 毅	69回 黒石 浩介
33回 森下 哲志	43回 衣笠 隆之	56回 足立 寛	70回 岡本 真明
34回 横内 昭	44回 脇本 晴治	56回 佐野 隆夫	72回 伊藤 岳之
35回 尾山 啓二	45回 稲津 謙治	57回 白尾 誠二	72回 小西 洋平
35回 国領 薫	45回 岡本 定行	57回 矢部 敬一	72回 藤野 純一
35回 沢井 陽	45回 小林 智夫	58回 加久本龍治	75回 辛島 理人
35回 小谷 明	45回 三田 文夫	58回 武川 光夫	75回 川本 康貴
36回 福田 達	46回 堀口 貞茲	59回 島本 佳憲	79回 原田 裕康
38回 小山 修二	47回 大沼 光夫	60回 納 浩一	91回 高瀬 雄平
38回 松林 輝芳	49回 中塚 一郎	62回 長宅 芳男	高商 4 十都 重雄
38回 三木 則夫	49回 野口 哲男	62回 松田 伸一	
39回 寺本 和弘	54回 大野 義明	63回 足立 尚人	

回生	醸金者数	醸金者率
4	1	(50.0%)
11	1	(7.1%)
13	3	(20.0%)
15	1	(4.2%)
16	1	(4.2%)
17	3	(9.7%)
18	7	(18.4%)
19	2	(4.1%)
20	8	(9.5%)
21	4	(5.9%)
22	7	(9.5%)
23	9	(9.3%)
24	6	(6.8%)
25	8	(7.1%)
26	0	(0.0%)
27	19	(20.4%)
28	6	(12.0%)
29	5	(17.9%)
30	2	(8.3%)
31	26	(33.3%)
32	6	(7.2%)
33	25	(22.7%)

回生	醸金者数	醸金者率
34	37	(52.9%)
35	46	(44.2%)
36	44	(49.4%)
37	56	(46.7%)
38	47	(40.5%)
39	65	(49.2%)
40	73	(51.8%)
41	13	(10.2%)
42	12	(9.8%)
43	12	(8.6%)
44	7	(4.8%)
45	23	(15.1%)
46	10	(5.8%)
47	13	(7.3%)
48	7	(4.0%)
49	16	(8.6%)
50	9	(5.1%)
51	11	(5.7%)
52	11	(5.9%)
53	7	(4.0%)
54	15	(8.0%)
55	14	(6.9%)

回生	醸金者数	醸金者率
56	13	(7.1%)
57	21	(9.8%)
58	22	(11.8%)
59	16	(7.8%)
60	17	(8.8%)
61	8	(4.2%)
62	21	(10.0%)
63	8	(5.1%)
64	9	(5.5%)
65	7	(4.1%)
66	4	(2.5%)
67	8	(4.6%)
68	4	(2.4%)
69	7	(4.1%)
70	4	(2.3%)
71	3	(1.8%)
72	16	(8.3%)
73	1	(0.6%)
74	7	(4.6%)
75	10	(6.0%)
76	5	(3.2%)
77	3	(1.8%)

回生	醸金者数	醸金者率
78	3	(1.7%)
79	2	(1.1%)
80	2	(1.1%)
81	1	(0.5%)
82	3	(1.5%)
83	8	(4.0%)
84	1	(0.5%)
85	1	(0.5%)
86	2	(1.0%)
87	3	(1.5%)
88	2	(1.0%)
89	1	(0.5%)
90	1	(0.5%)
91	1	(0.5%)
高商1	0	(0.0%)
高商2	1	(2.0%)
高商3	1	(2.4%)
高商4	2	(4.3%)
工専1	5	(8.6%)
工専2	4	(8.0%)

*醸金者数は「延べ数」です。同一人物が複数回醸金された場合はその複数回をカウントしています。

**醸金者率を算出する際の分母は、回生ごとの人数から物故者と住所不明者の人数を差し引いた数です。

***23回、36回、39回、40回で「ご一同様」からの醸金がありました。それについてはやむをえず1人分でカウントしています。

【醸金方法】

- (1) 同封の振込用紙を利用し、通信欄にファンドへの醸金の旨を明記して、郵便局もしくは三井住友銀行の「甲陽学院同窓会」の口座にお振り込み下さるか、
 - (2) 三菱東京UFJ銀行芦屋支店 普通口座3998990 口座名義 甲陽学院同窓会奨学金ファンド にお振り込み下さい。
- (2) の場合、振込人の卒業回生が分かるようにお願いします。

学校だより 山内先生 兵庫県功労者(教育部門)に

山内英正先生(地歴)が教育部門における県功労者として兵庫県知事から表彰されました。県功労者は、教育や文化など20部門で顕著な功労のあった人を表彰する制度です。このたびご寄稿いただきましたので掲載いたします。

をのこ むな
“士やも 空しくあるべき”
—最近思うこと—

山内 英正



最近ますます時間の経過が速く感じられます。毎日、講義のレジュメや締切原稿に追われながら暮らしています。それでも見たい博物館展示や演劇は、夜行バスに飛び乗ってでも見に行っています。しかし読みたい本は速読法でも読みきれず、各種資料の固まりとともに書斎や書庫や廊下のあ

ちこちに積み上がり、我が家はゴミならぬ“紙屋敷”化しています。

大学院の博士課程の折に甲陽学院の非常勤講師となり3年、そのまま常勤講師1年、教諭になってから33年余の年月が経ってしまいました。そして此の度「兵庫県教育功労者表彰」を受けました。自分流でここまでやってこられたのは、生徒や教職員の皆さん、学校法人のお蔭と感謝いたしております。優秀な生徒に囲まれ、毎日エネルギーのキャッチ=ボールをしていると、気分の上では年を取りません。そして諸先生が築いてこられた自由な学風、安定した学校経営。これらに支えられてきたことを実感しています。

思えば、甲陽学院における私の原点は、高井悌三郎・宮川秀一両先生との出会いでした。最初にお目にかかった時、高井先生は「授業は自由にやって下さい。ただし生徒は英語・数学で忙しいから社会科は宿題は出さないように。」と言われ、参考として御自分が出題した中学3年生用の定期考査の問題用紙を1枚下さいました。問題は論述2問。「1. 銅鐸について知るところを記せ。2. 伊丹空港の騒音問題について、国・自治体・住民それぞれの見解を記せ。」私はこれを見て絶句。

宮川先生は早口で語尾がよく聞き取れませんでした。が、「甲陽は教育をする場ではない。学問をする場である。出来の悪い教師が自分より優秀な生徒を教育することほど、喜劇的かつ悲劇的なものはない。」と一言。あとは自由にやるように、とのことでした。宮川先生が甲陽学院を去られる時、着任以来出題されたすべての定期考査問題を紐で綴じた冊子を下さいました。両先生の問題は、書庫の奥に積み上げているタッパーウェアのスーパーケースに、今も大切に保存しています。

私にとって甲陽が学びの場として最適であったのは、「甲陽史学会」に参加させていただき、甲陽ゆかりの多くの歴史学や考古学の研究者から刺激が受けられたこと

です。さらに加えて白鹿記念酒造博物館(酒ミュージアム)と辰馬考古資料館のお蔭です。

甲陽中学校の旧図書館の書庫に眠っていた考古遺物は、大阪市文化財協会の黒田慶一さんと共に、『甲陽学院所蔵旧「宇津保文庫」考古資料目録』の「瓦編」「土器編(瓦類補遺)」2冊にまとめることができました。昨年(2009年)秋季には辰馬考古資料館で「浪華文人蒐集家」展が開かれ、11月14日に「浪華の趣味人・三宅吉之助—その足跡と活動—」と題して講演させていただきました。

酒ミュージアムの笹部・堀内コレクションの中からも関連資料が多数見つかり、様々な趣味人・団体の解明に繋がっていきました。また、今年3月12日には同館で初めて「万葉コラボレーション」が催され、私は「万葉の酒」と題して講演しました。

やりたいことは山ほど溜まっています。国立公文書館所蔵の旧制甲陽高等商業学校・甲陽工業専門学校の公文書をまとめた史料集、三宅吉之助の伝記と資料集、「こころの万葉風景」(『産経新聞』奈良版連載)の単行本化、雑論集のまとめ等など、時間がいくらあっても足りません。

さて8月4日にはNHKテレビ番組「歴史秘話ヒストリアぴあの・すとおりい」で、戦時中に本校に駐屯していた陸軍船舶情報連隊(暁部隊)とベビシュタイン社製ピアノの奇しき縁が取り上げられます。高校3年の森将史君がピアニストとして登場します。ぜひ御覧下さい。学校は近現代史の宝庫です。その時代の実相が、地域社会とのかかわりの中で見えてきます。

授業では主に世界史を担当していますが、最近教科書記述は大きく変わってきています。曰く、「オゴタイ=ハン国は存在しなかった。」「オスマン朝のミット制は存在しなかった。」等など……。フロンティアに付いていくのも大変です。だからこそ歴史学は面白いのです。

山上憶良は「士やも 空しくあるべき 万代に 語り継ぐべき 名は立てずして」(巻6-978)と詠いましたが、未来に輝く甲陽中学・高校生の皆さん、卒業生の若き学徒の皆さんには、この歌に追和した大伴家持の歌を贈りたいと思います。「ますらをは 名をし立つべし 後の代に 聞き継ぐ人も 語り継ぐがね」(巻19-4165)。



酒ミュージアムでの講演

学校だより

お世話になりました

今春10名の方(昨年度中を含む)が母校を退職されました。以下にご紹介します。()内は着任年です。

奥山哲夫先生(1980年)、渥美憲一先生(1990年)、小島正義先生(1982年)、杉本妙子先生(2002年)、西岡礼子先生(2006年)、田中伸一先生(2008年)、村田吉司先生(2008年)、大仁洋先生(2009年)、柳沢助成さん(2000年)、川口隆さん(2006年)です。長い間ありがとうございました。

奥山哲夫先生と、前事務長の柳沢助成さんからいただいたご挨拶を掲載いたします。

▶ いくつかのお別れの言葉 ◀

奥山 哲夫



定年を迎え、いろんなところでお別れのご挨拶を申し述べました。

3月17日。日本史は高校2年生全員の必修科目になっており、私はA組の教室におりました。32年間の最後の授業です。残された数分間でこんな話をしました。

諸君は面白い時代に生きている。世界史は今、大転換の時代を迎えている。そのことを鮮やかに示している

のが今日のラテン・アメリカだ。私にこの転換を見届ける時間が残されているのかどうか分からないが、諸君には十分な時間がある。ただ、いくら時間があっても細切れの知識を詰め込むだけではこの転換を見届けることはできない。論文を書く能力が必要だ。人生は一箇の論文なのだから、と。

一年間楽しく授業が展開できたことの礼を言い教室を去ろうとしたところ、「ちょっと待ってください」と紙袋を手教壇に上がってきた生徒がいます。私への身に余る礼を述べてくれた後、紙袋から取り出したのは花束でした。突然のことで吃驚してしまいましたが、嬉しい限りでした。教室を出ると、他のクラスの生徒も階段のそばに集まって見送ってくれました。

3月24日。白鷹緑水苑で社会科の先生方が送別会を開いてくださいました。こんご挨拶をしました。

学界の最先端に着いて行くことなど到底叶わぬことでしたが、雑誌論文にはできるだけ目を通すなど、先頭を見失わない努力だけは心がけてきました、と。

よく冷えた大吟醸のおいしさが身に沁みたことでした。

4月17日。甲陽学院教職員組合総会。伊東委員長から「一言」と釘をさされましたので、一言に留めました。

やむを得ず総会を一回だけ欠席しましたが、組合の会合にはすべて出席してきました。私達にとって一番大切な組織だと考えてきましたから、と。

4月3日に74回生が、5月1日に82回生がお祝いのパーティを開いてくれました。それぞれ6年間担任した学年です。最後の講義をとの声もありましたが、感謝の言葉に留めました。二次会が跳ねたのはもう深夜のことでした。

自らの信念に背くことのない、その意味では充実した32年を送ることができたのは、恩師、先輩、同僚、そして教え子に支えられてのことでした。有難うございました。

非常勤講師の2年、教諭として30年、その機会を与えて頂いた中島久先生には深く感謝しております。合掌。

▶ 退職に際して ◀

柳沢 助成



この3月31日をもちまして高等学校事務長を退任いたしました。先ずもって、10年間の長きにわたり教職員、育友会、同窓会の皆様には公私ともども一方ならぬご指導ご鞭撻を賜りましたこと心よりお礼申し上げます。

阪神間を一望する絶景と緑滴るこの上ない環境の中で、皆様と巡り合え、また何千人という卒業生を送り出したこと、そして澁刺たる生徒諸君に囲まれて毎日を楽しく過ごせたことを思うと、ある種感慨を覚えずにはおれません。

当校は世間から全国4千とも5千校とも言われるあまたある高等学校の中でその伝統や資質において最トップレベルの評価を受けております。これは言うまでもなく90有余年の歴史の中、それぞれの分野で情熱をもってご指導してこられた先達、現役の先生方のご努力の結晶であります。またそれに立派に応え、巣立っていった同窓生の各方面での輝かしい活躍振りへの評価にほかありません。本当に一時期ではありましたが、この様な素晴らしい学校に身を置かせていただいたことを心底光栄に感じております。

民間企業出身、教育社会など無縁素人のまま平成12年4月に配属されました。一通りの引継ぎは受け、心の準備は出来ていたつもりでしたが実務に携わっては戸惑うことも多々あり、前職31年間の酒造会社勤務とのギャップを痛感したものです。自身、この間に果たして何ができただのか、あるいは何をしてきたのかと振り返ってみますと、自らの無能さにただ忸怩たる思いは禁じえませんが、そんな中で何とかここまでやってこれたのも偏に皆様方の暖かいご支援のおかげと心から感謝いたしております。職責を考え、全うするには「快調なエンジン音に欠くことのできない潤滑油になることだ」と思い、ひたすら自身の持ち味を素直に出し、自然体で行動しようと心がけるようになっておりました。裏返せば私にはこれしかなかったと言うことです。

10年間には楽しいこと、嬉しいこと、反面、悲しく、苦しいことも色々経験致しましたが、今は楽しかったこと、嬉しかった事のみ思い出されます。生徒諸君にはたくさんの勇気と感動をもらいました。耐寒登山、記念音楽会、体育祭、修学旅行、音展、卒業式など教室以外のステージでも感動を共感し、厳しさは分かち合って友情を育み、高校時代の友人は一生の付き合いになるから、素晴らしい思い出作りの手伝いができればと、こんな思いで生徒諸君と事務室では肌で接し、普段言葉で接してまいりました。

年々歳々、去る者は日々に疎しと言います。人間社会は好むと好まざるに関わらず新陳代謝を繰り返えし、代わりにより、新鮮な血を受け入れて脱皮し、進化していくものです。その意味では「別れ」も必然の結果であり、決して悲しいことではありません。甲陽学院の更なる発展を祈念し、去る自身もこれからの人生、感謝の気持ちを忘れず皆様方の教えを胸に精一杯頑張っていく決意です。

学校だより

甲陽学院高等学校進路講演会

高等学校では、従来からの同窓生講演会とは別に進路講演会を行っています。主として大学関係者をお招きして、高校生の進路選択に役立つようなお話をさせていただく会です。

医学を志す君たちへ

大阪大学医学部講師
藤澤 智巳(64回)

2010年2月15日(月)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、医学博士の藤澤智巳氏を招いて、掲題のご講演をいただきました。



お話は、①医学部学生から研修医、そしてその後のコースについて ②医師の仕事の魅力＝自分が好きなことを生かして、それが自分の収入につながり、それが自分の生き甲斐につながる ③医師に求められる資質・能力＝人が好きであることと勉強を厭わないこと ④これからの勉強方法＝10年先をみて勉強する というような内容でした。

当日は、自由参加にもかかわらず80名ほどの生徒が集まり、藤澤氏は生徒の席に入っていきながら熱く語ってくださいました。

アルツハイマー病への挑戦

東京大学大学院医学研究科教授
岩坪 威(59回)

2010年5月29日(土)の放課後、甲陽学院高等学校視聴覚教室において、掲題のご講演をいただきました。

岩坪氏は、東京大学医学部卒業後、

東京大学大学院薬学研究科で希代の難病と言われるアルツハイマー病の研究に取り組み、2007年より同医学研究科に移られてからも、その病理学研究を続けられ、2008年には米国メトライフ医学研究賞を受賞されるなど、世界最先端の研究をなさっています。

当日は、自由参加で集まった約80名の生徒を前に、研究成果の一端をご紹介いただき、また東京大学と研究生活の様子などについてもお話いただきました。「関西から全国へ、そして世界に雄飛してください」というメッセージが生徒たちの胸に強く刻まれたことでしょう。

(甲陽学院高等学校教諭 今西 昭 記)



学校だより

創立記念音楽会

Trio Minstrels トリオ・ミンストレル コンサート



恒例の創立記念音楽会が4月29日13時30分開演で母校の講堂にて開催されました。この日は天候にも恵まれ、ご来場いただいた多くの方とともに優雅な午後のひと時を過ごしました。

今年お招きしたのはヴァイオリニストの木野雅之、チェリストの小川剛一郎、ピアニストの北住淳の3氏からなるピアノトリオ、「トリオミンストレル」です。プログラムに記載された解説によると、ピアノと複数の管楽器や弦楽器による室内楽は19世紀に主流となり、その最もシンプルな構成が、この日演奏された「ピアノとヴァイオリンとチェロ」によるピアノ三重奏だそうです。

前半はモーツァルト、ベートーヴェンの2曲でクラシカルな雰囲気に入り、休憩を挟んで後半はラヴェル、ドビュッシーといった比較的近年に活躍した作曲家の作品で、演奏の優美さ、華麗さは言うまでもないのですが、まるでクラシック音楽の変遷をたどるかのようなプログラム構成も楽しむことができました。後半の曲にはチェロやピアノを手で叩いて演奏する場面もあり、このような奏法があるのかと大変驚かされました。

アンコール曲も含め全9曲のすばらしい演奏を聴かせていただき、素敵な音楽の世界を満喫することができました。(谷 晋一郎 記)



学校だより

教育実習体験記

思い出の中の甲陽 そして今…

荒木 陸(88回)

今回、僕は地歴(世界史)の教育実習生として、約3週間甲陽のお世話になりました。もともと歴史の内容について話すことが好きだったため、今回の教育実習は不安な半面、楽しみでした。

僕は甲陽時代、およそ甲陽生らしくない言動をとっていたため、最初に職員室に入る時はかなり緊張しました。暖かく迎えてくださった先生方には、深く感謝しています。

今回の教育実習で一番印象に残ったことは、中学校の変化です。教室が3クラスから5クラスに増え、校舎の一部や食堂が改築されたということは、以前から話には聞いていましたが、実際にしてみると驚きを隠せませんでした。7年振りの中学校ということもあり、移動中に迷うこともしばしばありました。しかし、体育祭予行時に自分が、少し曖昧でありながらも学院体操を行い、応援歌、学院歌を歌うことが出来たのは、「自分も昔、甲陽生だった」という思いを一層強めることになりました。

逆に高校は、僕が卒業した時の面影をほとんどそのまま残しており、高校で過ごした3年間を思い出し、とても懐かしい気持ちになりました。

僕が甲陽から離れて、すでに3年半の日にちがたっていますが、今でも甲陽に帰ってくると落ち着きます。大学では得ることが出来ない、甲陽独特の雰囲気は僕にとってピッタリでした。甲陽は「責任ある自由」を重んじる校風ですが、それを現実に行っている学生たちが大勢いること、そして大学受験も近く、模試続きで大変な中でも明るさを失わずに、学生生活を楽しんでいる高校3年生の姿を見ると、「自分も甲陽の卒業生でよかった」と誇らしい気持ちになります。学生時代、僕は阪急夙川駅のプラットホームから見る夙川が好きで、いつも電車を待ちながら川の流れを見ていたものでした。今回、教育実習生として再び夙川駅に降り立ち、夙川の流れを見ることが出来ましたが、その風景は僕が中学～高校時代に見ていたものと殆ど同じでした。そしてこの時、自分がかつて川を眺めていた自分の姿をはっきりと思い出しました。そういう意味で、今回の教育実習は、かつての自分の姿を振り返る事が出来る、貴重な体験にもなりました。これからも甲陽が持つ「明朗・潑潑・無邪気」な学风が続いていくことを心より願っております。

6年ぶりの中学校

日置 恭史郎(88回)

教育実習で6年ぶりに訪れた中学校は、懐かしく、新鮮でもありました。

6年の間に中学校は色々と変化していました。1学年が3クラスから5クラスに増え、校舎が増築されていました。食堂も新たにきれいなものが建てられていました。また、お世話になった先生の中には退職された方がおられたり、自分の卒業後に新しく甲陽に入られた先生がいらっしゃったり、在学中とは顔ぶれがかなり変わっているように感じました。

しかし、校舎の雰囲気や生徒たちの様子、自分の在学中からおられる先生方は、ほとんど昔と変わりはなく、そのためでしょうか、休み時間中の生徒を見てみると、光庭で走り回ったり、教室で友だちと遊んだりしていた記憶が、うっすらとよみがえってきました。先生方とお話していても、同じように当時のことが思い出されました。

それらは、卒業後は全く思い出すことのなかった記憶でした。自分の経験であるにもかかわらず、小学生の頃に見た映画の思い出のようにぼんやりしたものでした。今の自分は、中学生時の自分とあまりにも遠く離れてしまったようで、懐かしさと同時に一抹の寂しさを覚えました。甲陽を卒業し、大学生活を送るなかで、価値観や性格は大きく変わってしまい、もう戻ることはできないのだということを感じました。

さて、実習に来た当初は、そのような感傷的な気持ちが強かったのですが、授業を参観させていただき、生徒たちと触れ合っていくうちに、少し考えが変わっていきました。それは非常に前向きな考えでした。それは、完全に忘れ去っていると思えた当時の先生方のお話や授業内容、生徒同士の交流、そして甲陽全体の持つ雰囲気などが、実は今の自分に大きな影響を与えているのだという考えでした。今の自分の価値観や性格は、甲陽を出てから突如形成されたものではなく、甲陽での6年間を基礎に成り立っているのだと感じたのです。特に、放任主義(?)とも言える、生徒の自主性をできるだけ尊重しようという校風の与えた影響は、とても強烈なものだと思えました。

教育実習では、教師としてのあり方や授業の仕方、教材研究の方法、生徒への接し方などを勉強させていただきました。ただ、上に書いたような、じっくりと自分を振り返る機会を得ただけでも十分な収穫があったと思います。

第17回 リレー随筆

甲子園球場外伝

黒岩 琢磨 (29回)

「畜生!!何でこんな所に野球場があるんだ!!」。甲陽中学校一年生の私たちは上級生の後について、校門を出てすぐの甲子園球場の周囲を度々走らされた。「身心を鍛えて米英に勝つのだ」という名目のもと、体育教官を兼ねる配属将校の命令に従ったのである。

甲子園球場は大きいので有名であり、中等学校野球のメッカであったが、当然、その周回道の距離は長かった。フーフー言って周ってくると「もう一周!!」という非情の言葉があびせられ、嫌々その命令に従わざるを得なかった。

この球場の観衆の応援や歓声が聞こえてくる甲陽中学校の西隣りに、私は5歳から住んでいた。現在のノボテル甲子園ホテル表玄関への車乗り入れ口の辺りである。

私が、あの甲子園の学び舎を巣立って、早や60年の歳月が過ぎ去ろうとしている。遠くその母校を思う時、必ず甲子園球場が母校と一対となって浮かんでくる。この球場は、幼かった頃の楽しい思い出を沢山残してくれた。ここに、心に残る戦中・戦後直後の球場の思い出を綴ってみたい。

1. 花火大会

毎夏、一日だけ花火大会があった。夕暮れに入場し、夜の闇が空に広がってくるのをドキドキと胸をおどらせながら待った。

外野席に丸太棒を組んだ仕掛け花火が生まれ、観客はそれを内野席から観るのである。打ち上げ花火は、今よりは明らかに単純な物ではあったが、江戸時代の炭を使ったオレンジ色ではなく、赤白青緑黄と鮮やかな輪を轟音とともに咲き乱させてくれた。

仕掛け花火の壮さ美しさは大変なもので、付け火の緑色の火が暗闇を左に右に動きまわり、次の瞬間の大展開に我れを忘れた。

また、打ち上げ花火が空中に飛ばず地上で破裂したもの見たが、殆どグラウンドいっぱいの扇形になったのは驚きだった。

内野席を掩う鉄傘は、昭和18年頃に砲弾用の鉄不足を理由に取りはらわれ、戦後2、3年目にジュラルミンの銀傘として復活した。ところが、これが花火に弱かった。戦後数年目に球場の花火大会を観に行った私は、はなれた席から花火が打ち上がるのを見て「何故?」と思ったが、翌朝の新聞を視て驚いた。それは空中で不発の花火弾が、銀傘を貫いて落下し、観客席で破裂した状況を報じていた。確か死者が一人で数人が火傷を負ったと記憶しているが定かではない。そんな事故が起っているのに大会は中止にならず、何ごともしなかったかのように終了した。現在では、到底考え

ることができないが……。

2. 野外映画大会

甲子園球場のど真中に大スクリーンを設置した野外映画大会が、夏場に2、3回あった。阪神電鉄甲子園駅側に常時大スクリーンは置かれてあり、がっしりした鉄骨で組まれたそれは、高さ20メートル、幅15メートル位あったように思える。それが二基あった。

レフト側アルプス席と外野席の間にトラックが通れる程の空間があり、そこに特設レールがグラウンド中央まで敷設され、その上を大スクリーン2台が人力で運ばれた。かくして、高さ20メートル、幅30メートル位の大スクリーンが立ち上がる。

夜の闇が立ちこめ星がまたたきだす頃、映写は始まった。邦画ではなく洋画であったように記憶するが、「ターザンの〇〇」は明確に覚えている。演ずるはオリンピックの水泳で名をはせたジョニー・ワイズミュラー。映画は、勿論モノクロ、今より格段に質が悪いから大味な画面、音声のスピーカーもまずまずで、それが浜風に乗って大きくなったり小さくなったりする有様。せりふなどのスーパーインポーズは弱視の私には読みとり不能、それでも何とかストーリーは判る程、筋そのものは単純だった。

その他、野獣がウロウロし、あげくの果ては闘争するアフリカロケ物?、芯のある作品として「スタンレー探検記」が印象に残っている。ジョン・ウエイン主演の「駅馬車」が写されると風の噂に聞いたが、日米開戦でお流れになった。

涼風の中、北斗七星などの満天の星空の下での野外映画大会は、時に見られた流れ星の思い出とともに鮮明に残っている。

この大スクリーンは、戦後数年間、球場前の芝生に放置されていたが、高速道路が造られた頃、姿を消したように思う。

3. 野外演芸会

次に少々とぼけた話を紹介しよう。島根県の安来節が「どじょうすくい」という踊りでもてはやされた時であった。その時か否かはわからぬが、球場でそれを観た。

映画会の大スクリーンが設置される辺り、グラウンドの中央に仮設舞台が生まれ、それが沢山の照明で明るく浮かびあがり、ムードをいやが上にも盛り上げる。

やがて三味線や太鼓に合わせて、10名位（もっと多勢だったかも）の女性が百姓姿で並んで踊り、一人の男性がざるを手に腰を振り振りコミカルに踊って観衆の笑いを誘う。

今考えると、盆踊りのようなものであるが、中国大陸での戦火が広がる一方のご時世故、結構な娯楽だったのだろう。

この催しと同時開催であったかと思うが、幼い子供には男性か女性か紛らわしい歌手もいた。それは「小唄・勝太郎」であり、歌劇の「藤原義江」であった。「曾我の十郎・五郎」という演劇も観たが、誰が演じたのか全く記憶にない。

4. スキージャンプ大会

“日の丸飛行隊”として冬場のスポーツ界を賑わすスキージャンプが、急造のゲレンデで行われたのをご存じの方があるだろうか。

私は2回見ているが、朝日新聞社の主催であったような記憶がある。寒い冬、数日かけてトラックで続々と雪が運ばれてきた。多分、琵琶湖北部からの運搬だったように思うが、トラックそのものが現在のように大型車がなく、今の2トン車程度だったから大変な労力がいったようだ。

球場の外野席の傾斜を利用して木製のスロープが作られ、その上に雪が運びこまれてゲレンデが作られるが、全て人力。

スロープの中程に段があって、スキージャンパーが空中に翔び出すわけである。空中に浮いたと思うと直ぐに着地するから、今のように100メートルも翔ぶ迫力はない。

ジャンパーは、趣味でスキーをされているアマチュアの方々だったと記憶しているが、雪質も悪く、用具も粗悪で翔ぶというより跳ぶと書く方が正しかったかもしれない。

スキーというものを見るのは初めてだから好奇心はあったが、大して面白いとも思わなかった。雪は一週間程で溶けて流れた。

今まで夜のイベントを紹介してきたが、スキージャンプ大会は真昼の開催であった。

5. 鷹狩り

日本の伝統芸のひとつで、今も細々と守り育てられている“鷹狩り”の実演が甲子園球場で公開されたのは、あまり知られていないようだ。

鷹がどれ程鷹匠に馴れていて言うことをきくか……を大観衆の前で見せるのだが、鷹が獲物におそいかかるのを見せるショッキングなショーと言える。

腕に鷹を乗せた鷹匠が静かにグラウンドに現われ、息を吞んで静まっている大観衆に紹介される、やがて、100メートル程の距離をおいた所から、一羽の鳩が空へ放たれた。すばやく鷹匠は鷹を空中に放つ。鷹はものすごいスピードで鳩に迫りおそいかかる。アッと言う間の出来事であり、鋭い爪を立てられた鳩の体からパッと羽毛が飛び散る。獲物をかかえて降りてきた鷹を鷹匠は腕に止まらせ、鳩を片手でぶらさげる。拍手喝采!!

鳩の他に兎も犠牲になった。鳩と同じく100メートル程はなれた所に兎が放たれた。兎は自らの運命を知らず、呑気にひょこひょここと走り出す。鷹は急降下で一気におそいかかり、兎は逃げる間もなく一巻の終りとなった。

6. 戦車の威力のデモ

野球場と言うと野球の試合をし、それを見せる所と考えるのが普通の考え方だろうが、実のところ、こんなにも色々な催し物が開かれていた。近くに住んで、朝に夕に球場を見て生活した人間として、意外とも思える幼児体験を書いてみたが、もう一話で締めくくることにしよう。

1から5まで紹介したものは、演ずるものにしろ音楽にしろ、軍国を煽る文句や戦争の影はチラチラと覗き見られたが、一応、平和そのものであった。

但し、これからの話はそうではない。小学生の私が色々楽しんでる間に、支那事変と呼ばれる中国大陸での戦争が拡大する一方、嘘か真か真偽の程はわからぬ戦意高揚の話が巷に溢れていた。

そんな或る日、我が皇軍の活躍が報じられる話のひとつとして“西住戦車隊長の壮烈な戦死”が話題を賑わせた。クリークに行く手を阻まれた西住戦車隊長（名はうろ覚え、自信なし）が、弾雨の中、戦車から出てクリークの深さを調べている最中に戦死する話であったように思う。がしかし、それが何故戦いの勝利に結びつくのかは、子供である私の頭では理解できなかったことを覚えている。

戦争が激しくなり出征者も増え、野球の試合も中止になっていた頃、球場のグラウンドは戦場と化した。白球がイレギュラーバウンドしないように細心の手入れがされていたグラウンドが、あちらこちらに塹壕が掘られ、その周りには杭が打たれ鉄条網が張りめぐらされていたのである。無残な姿と見えた。

当時、軍部の命令に従わなければ大変なことになるので、球場側も文句ひとつ言えなかったのだろうが、全く酷い話であった。

数台の戦車が参加して、戦車がどんなに優れた武器であるか……を見せるショーが始まった。轟々たるエンジン音を響かせた戦車が、積み重ねてある土のうを物ともせずによじ登り、鉄条網を踏みつぶして塹壕を越えて走りまくるのであった。広いグラウンドに置かれた戦車は、いかにも小さく豆戦車に見え、ちっとも勇ましいと思わなかったのが正直な気持ちだった。

時移り、今や我が国の戦車は世界でトップレベルを誇っているそうだが、それがお役に立つようなことがないことを祈りたい。

中学1年の終わり頃に、学徒勤労動員で桜・桃・梅・橘組は阪神電鉄に、李組は甲子園球場内に移転された魚雷運搬車の製造工場に、敗戦の時まで駆り出された。この時の貴重な思い出は次の機会に譲りたい。

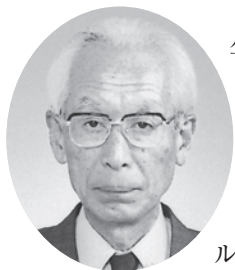
(日本折紙協会・元事務局長)

奥田佳也先生 逝去

平成7年まで母校で国語を担当された奥田佳也先生が3月22日に逝去されました。謹んでご報告申し上げます。

奥田佳也先生を偲んで

嶋吉 由喬 (62回)



先生とお会いしたのはかれこれ35年も前と言うことになります。当時中学一年生であった私達の前にC組の担任として紹介されました。スリムな姿とゆったりとした物腰で最初からおだやかな先生という印象であったと思います。たいへんエネルギーで個性的な担任団の先生方

(中島久先生、山下先生、高校からは佐々木先生が加わりました)の中にあって、いつも飄々とした雰囲気醸し出される奥田先生は、僕たちにとってある意味で個性的な先生でした。いろいろな個性を持った先生方がいてくださるということが私たちには本当にありがたかったと思っています。

そんな先生との数多い思い出のなかでも僕にとって印象深い出来事は読書感想文にまつわるものです。例年先生の夏休みの課題の中に「読書感想文」がありました。4冊程度の本を示し、その中から一冊を選択して感想文を書いたうえで夏休み中に先生のお宅に郵送(高校では郵送ではなかったような気がします)するという課題でした。本を読むことはさほど嫌いではなかったけれど感想文はゆるしてほしいというのが当時の僕の率直な感想でした。おそらく中学二年生の時だったと思います。早めに仕上げてさっさと郵送してしまえば何ということはないのですが、例によってぎりぎりまで先延ばしにして、書き上がったのは提出期限当日。郵送では期限に遅れてしまい叱られると考えた僕は、直接お宅に持って行って投函してしまおうと考えつきます。中学二年生にとっては住所だけを頼りにお宅を探すのはちょっとした冒険です。やっとの思いでたどり着き、先生にはばれないようにと切手も貼って無事投函。いろいろな意味でほっとしたものでした。ところが夏休みを終えた最初の授業で先生は「わざわざ家まで持ってきて投函してくれた者がいた。」と皆の前で言い始めたのです。なぜばれたのかという思いと叱られるのだという気持ちですっかり混乱して

いる僕の耳に「そいつもわざわざ家まで来たのなら一言ぐらい声をかけてくればいいのに…。さぞ暑かったろうから冷たいお茶のいっばいぐらい出したのに。」といつもと違う調子でおっしゃったのです。何とも言えない暖かみのある表情でおっしゃった言葉が意外で、幼かった僕はすいぶんと嬉しく受け止めました。みんなが知らない秘密を先生と共有しているような気分で、いかめしく怖い存在でしかなかった「先生」というものを一人の人間として、身近な存在としてはじめて感じた瞬間でした。先生にとっては何気ない普通の思いを口にしたのかも知れません。それでも幼かった僕はこうした体験を通して物事は多面的で柔軟なものであることを教わったものでした。

また先生の授業中の口癖は「もういい、座れ」でした。授業中に答えられなかった者が立たされているのですが、正解を答えると座ることができます。何度も答えるチャンスがもらえます。ところが立っている者は何を何度聞かれようとも答えられないのです。そこで「仕方のない奴だ。もういい、座れ」となるわけです。ため息混じりに、ちょっぴり皮肉っぽくあきらめたように。でも私達は分かっていました。ときどき垣間見せてくださる表情に私達は先生の人柄を感じたものでした。紳士でちょっぴり皮肉屋。クールに見えて実はいつも温かい目で私たちを見守って下さっていると。

奥田先生の訃報に接し、その時が来てしまったのかというのが一番に頭に浮かんだことばでした。以前から体調を崩しておられるのは知っていました。一度お見舞いに伺わなくてはいつも頭のどこかで思っていました。それでも結局先生にお会いできなかった。先生のもとを訪ねるのを先延ばしにし続けていたことが悔やまれてなりません。いつも私たちの前では紳士然としておられた先生のこと、きっと少しでも弱った姿は見せたくないとお思いだろうというのが私の私自身への言い訳でした。つまらない言い訳などせずに素直に会いに行くべきだったのでしょう。私の不義理も先生はいつものように「仕方のない奴だ。もういい」と半ばあきらめながら、それでも許しを含んだ口調で、言って下さるのでしょうか。先生のご冥福をお祈りいたします。 合掌

訃報

(平成22年5月31日現在)

事務局では左記会員の逝去の報に接しました。謹んで哀悼の意を表します。

数内	高尾	川淵	宮田	越智	篠原眞太郎氏	多鹿	花木	田嶋	南野	金井	久保田恵三氏	吉岡日佐吉氏	鷲尾	西本	吉川	熊	札拔	宮崎	新海	山本	高尾	岡村	原	井上	松村喜八郎氏	橋本	前田	堀	佐古田正昭氏	海邊	小田
昭夫氏	啓氏	悦三氏	光夫氏	滋氏		和夫氏	繁氏	英二氏	勝氏	孝憲氏			吉章氏	正博氏	滋男氏	忠雄氏	琢哉氏	修氏	圭一氏	誠氏	啓氏	省吾氏	輝治氏	新蔵氏		恭一氏	倭雄氏	建二氏		忠治氏	融氏
(工専2)	(工専1)	(高商3)	(高商2)	(高商2)	(高商1)	(46回)	(42回)	(42回)	(40回)	(40回)	(31回)	(29回)	(27回)	(26回)	(25回)	(24回)	(23回)	(23回)	(23回)	(22回)	(22回)	(22回)	(21回)	(21回)	(20回)	(19回)	(18回)	(17回)	(16回)	(13回)	(11回)
10年5月18日	09年12月1日	10年1月28日	10年1月13日	09年3月13日	09年9月1日	09年9月17日	10年4月7日	09年4月4日	10年5月7日	10年2月4日	09年7月31日	10年2月1日	10年2月13日	09年6月25日	09年10月28日	10年4月18日	07年2月25日	09年6月27日	09年7月13日	10年3月22日	09年12月2日	10年2月13日	09年12月15日	09年6月12日	09年12月24日	09年9月6日	10年1月26日	10年2月18日	10年4月27日	10年1月24日	09年5月6日

会員だより

甲陽史学会例会の開催お知らせ

8月28日(土)午前10時～12時 ノボテル 2 階

会議室で甲陽史学会の例会を開催します。

報告者：笠谷和比古氏

(国際日本文化研究センター教授 49回生)

テーマ：豊臣氏と大坂の陣

史学会会員のみならず、同窓会会員の一般参加を歓迎します。

会費：必要に応じて実費徴収。

申込：あらかじめ下記連絡先までお知らせ下さい。

TEL/FAX 0798-47-8574

E-mail hasimoto@keiho-u.ac.jp 橋本 久

24回 梅組 秀光美会

平成22年3月29日、中学24回梅組の6名が、例会場の大阪本町、石橋事務所に参集し、秀光美会を開催しました。

常連メンバーに加え、久しぶりに坂田君が顔を出してくれ、表千家茶道具美術商としての商売のあり方と苦労話に耳を傾けつつ、中学時代の悪がき話に花を咲かせて、次の再会を約して散会した。

ただ、召集を掛けてくれた、石橋君が突然体調を崩して不参加で寂びしく、気掛かりな事であった。

写真は、当日の石橋事務所での撮影で、前列左より、讃井、大戸、田中、後列、古田夫妻、坂田、山根の皆さんです。

古田勝己(0977-67-2775) f-cartome@sea.plala.or.jp



☆ ーお願いー 住所変更の届け ☆

- * 会報の発行に際し、毎回・約100通に近い会報が転居先不明で戻ってきます。
- * その都度、事務局で労力と時間をかけて、転居先の調査を行い再発送を行っています。事務局の確認作業にも限界があります。住居を移転された時は、忘れずに事務局まで住所移転の通知をお願いします。
- * 各回卒の理事・評議員の皆様は、同期の方に住所・勤務先等の変更の連絡がありましたら、必ず事務局にも、ご連絡の程お願いを申し上げます。

24回 橘友会

在阪有志の昼食会は年に数回行って居るが、一泊旅行としては平成19年12月の伊勢神宮参拝以来2年半振り、今回は織部君のお世話に依り、5月11～12日松本城・戸隠高原・善光寺への旅行を催した。(大阪より5名、横浜より1名)

5/11 8時30分大阪駅集合、特急しなの9号にて出発、途中下車で松本城見学、松本駅よりローカル線で姥捨山經由長野駅で下車、横浜からの宮代君と合流、ハイランドバスで約1時間戸隠神社中社前下車、宿の迎いのバスで約15分、午後6時前ロッジ「タンネ」到着、生憎の雨で途中の景色も期待の高原の星空も見られず残念、入浴後、薪の暖炉と宿の心づくしの山菜の珍味の夕食とで温まり、10時過ぎまでお互いの健康談や思い出話に時を過ごし、長時間の旅の疲れもあり早めに就床。翌12日は幸いに朝から快晴、5時～6時に各自起床し朝食前に周辺を散策、風強く冷えて(7℃)透き通った空気の中、処々に雪を冠して眼前に迫る戸隠高原2000m級の山々、白樺・唐松・樅の木等の林、小鳥の囀り、点在する可憐なカタクリの花、道脇に残る根雪の塊の数々等バードウォッチングで有名な海拔1,200mの高原の野趣を満喫、(酷寒時は気温-20℃、積雪3mに及ぶとか)、朝食後9時過ぎから「タンネ」のマイクロバスで戸隠山直下の戸隠牧場(雪山と樹齢300年の一本桜が満開、その対比が絶景)・戸隠森林植物園(水バショウの一面開花の群生が見事)・鏡池(風強く湖面波立ち連峰の雄姿旨く映らず)へ案内して貰い、川中島バス戸隠(営)迄へ。10時30分発ハイランドバスで約1時間で善光寺へ。流石に天下の名利、参詣者多く賑やか。参詣後長野駅へ、駅前で昼食後、宮代君と元気で再会を約し、大阪組は帰阪の途へ。大阪駅着19時18分、互いの健勝を祈って解散した。

少し強行軍であったが、全員無事に参加出来た事を感謝し、善光寺参りで後生安穩を願う旅が、美しく雄大な大自然と、それを守り厳しい冬を凌ぐ人々の話に感動し、益々生活意欲を駆き立てられる旅となった。次回もこの様に元気を貰える旅にしたいと願っている。

写真はロッジ「タンネ」の前で、後列向って左より織部、宮代、中島、前列同じく左より綿谷、近久の諸兄と南方。南方記。



☆ 「会報・甲陽だより」の原稿募集 ☆

- * 次号・第83号は、来年2月末頃に発行を予定しています。
- * 「会員だより(同期会・クラス会)」・「運動部・文化部のOB会だより」・「詩・短歌・俳句の発表」・「クラス会・同好会・研究会等の連絡」などのご投稿をお待ちしています。
- * 原稿の締切日は、来年1月10日です。

25回 天文会 (S20年卒 橘組)

平成22年 4月20日 (火) 晴の午後今年は梅田の阪急グランドビル28階グランドビル 司 (日本料理) にて開催致しました。

平成20年にお伝えしましたが、平成5年から、毎年4月20日に同窓会を催し、年々出席人数が減って来ましたが、今年は嘉治井君が亡くなりました。毎年出席者少なくなるのは寂しいですが80歳を過ぎた我々には仕方がないこととは思わずにはおれません。病い苦しんでいる森山君が8年ぶりに、今回出席してくれましたので、なんとか6名での会合となりました。各自の近況報告及び欠席者の現状を知ってる者が説明をしながら約2時間、歓談、飲食を楽しみました。最後にお互いに健康に気を付けて、来年も元気で再会出来る事を誓い合って、散会致しました。来年も4月20日の開催を 司 にて行くことを決定しましたが、何名と会えるかが楽しみです。持病の方が多くて、出席者がどうかと思いましたが、幸い今年は6名となりました。

猶当日の出席者は下記の6名です。

左より

村上誠一、森山泰史、押目圭市、浅香隆一、大芦万久、波々伯部繁 (大芦万久、波々伯部繁記)



25回 梅組クラス会

平成22年度のクラス会を、J R大阪駅から近いレストラン・ニュー・トーキョーで、3月21日 (日) 午後2時に開催し、6名が出席しました。昨年度はノボテル甲子園で開催して5名の出席、なんとか10名へ、と同窓会運営に力を尽くしている高田典雪の案で、この会場を選びましたが届かず、今後の進め方を話し合いました。

25回生は、昭和19年から工場への勤労働員を経験した仲間なので、クラス会の毎年開催を始めてからは、旅行も含む親睦の集まりが続いています。

有馬温泉から始まり、伊勢神宮、浜名湖、東北地方の花巻と平泉。熱海に住んで毎年ヨーロッパへ描きに行く對木道磨画伯による伊豆半島一周や富士山麓、九州に住む谷尤 (まさる) による阿蘇や耶馬溪、また今でも仕事で海外行きが多い高野昭二による台湾観光、さらに、シンガポールで事業に成功して永住の石崎昌市の招きのシンガポール観光、この時は夫人を含めて20名以上の出席でした。

クラスメート全員が80歳を超えたクラス会をどう進めていくか、甲陽だよりが送られてくるのは大きな助けとなります。

写真左から。前、高見礼三、栗原正己、平井健男。後、高田典雪、谷尤、高野昭二 (事務局 平井 記)



甲東会 (関東在住第29・31回生同期会)

「甲東会」は1984年 (昭和59年) 夏、東京は平和島の「柏戸」で産声をあげた。銀座「すえひろ」の直営店で、同期の畏友吉岡日左吉君が当時店長を務めていた。美味しい牛肉をはじめ鍋物を格安で心ゆくまで味わい、散会前には校歌を高らかに歌った。23年間にわたり世話役として汗を流した藤原博君が、同期会文集「甲陽の思い出ーああ青春の血は燃えてー」(2009年5月刊) に「甲東会」の歩みを実に簡潔にまとめ寄稿されている。

愛妻が他界された吉岡君が関西に戻ってから10年は、厚生施設が充実していた「出光」の都心一等地にあった料亭並みの寮に、成住俊二君の手配でお世話になった。2003年 (平成15年) から再びすえひろ銀座寿店が会場になり、吉岡君も年に一度の参加を大きな楽しみにしてきたが、残念なことに外出もままらぬ健康状態になり、時を同じくして同店も閉店した。

「甲東会」は、誕生以来四分の一世紀にわたって存続してきた。同窓会のような集いが永続するには、三条件が必要とかねがね言ってきた。第一は、会の構成メンバーにその会を続けようという強い気持ちがあること。第二は、いわゆる「マメカン」の存在である。最後の条件は必須ではないが、この二条件に「求心力のある人物」が加われば盤石となる。同窓会の場合「恩師」がこれに当たるが、残念なことに恩師はすべて物故されてしまった。「ああ青春の血は燃えて」を歌い続けたい仲間と、労を惜しまぬ名幹事藤原君の存在が、長期存続の源であった。

「すえひろ寿店」閉店を機に、「マメカン」藤原君から筆者がバトンタッチを受け、昨年会場を銀座「おおたに」に移し、中国通大村力君が蘇州周遊と、「簡体文字」について語った。銀座にいながらにして、中国の風光明媚な観光名所に案内されているような気持ちを味わった。今年は5月14日同所に会合し、参会者こそ少なかったが、(黒岩琢磨・白井伸一・鈴木登・辻井淳・成住俊二・森竜二) 日本折紙協会中興の祖、黒岩君が折紙について語り日本独特の奥の深い文化の世界に誘ってくれた。

今年のハイライトは、企画以来三年越しに前記文集「甲陽の思い出」が刊行され、刷り上ったばかりで印刷インクの香りもするほどの小冊子が出席メンバーに配布されたこと。会の前日有田編集長から白井君の許に届いたのである。この文集はすでに「甲陽だより」で紹介されているが、29・31回生の有志約40名の回顧談にとどまらない、貴重な体験・史実の記録でもあり、甲陽関係者には是非一読願いたい内容である。

来年も「おおたに」を会場に、10名程度の小グループが集う予定である。同期の学友はもとより、甲陽健児のご参加を心から歓迎する。なお「甲東会」は小田原在の大村君のお世話で、青空の下緑野で白球を追う健康スポーツも楽しんでいることを付記する。(鈴木 登 2009.7.1. 記)

* 追記: 甲東会創設以来、会を盛り上げてきた好漢、吉岡日左吉君は薬石効なく2010年2月1日帰らぬ人となった。

合掌。 (2010.5.1. 記)
 *母校を巣立って60年。齢も傘寿になろうとしている。この間に、多くの仲間を失った。論語に「喪は哀を致して止む」とある。不帰の友垣に、唯々哀しみを尽くすのみである。[同期会は、来春に予定] (22.6.6. K A)

41回生の集い（ご案内）

きたる 8 月28日（土）午後 2 時からの甲陽学院同窓会会員総会では、私たち41回生の卒業50周年にあたり、ホーム・カミング・デーとしての催しが予定されています。つきましては、同期の諸兄におかれましては、ぜひとも万障お繰り合わせのうえご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

なお、全体会終了後に、同期でのつどい「41回生の集い」をひきつづき同会場の別室で 5 時頃から行いたいと存じます。所用で全体会に出席できないメンバーもこの席には加わっていただきたいと存じます。詳細は別途お知らせしたいと存じますので、下記連絡先までご連絡ください。

TEL/FAX 0798-47-8574

E-mail hasimoto@keiho-u.ac.jp 橋本 久

第9回 甲陽ウインドアンサンブルのタベ

日時：2010年 8 月15日（日） 午後 3 時 開演

場所：神戸市灘区民センター

うはらホール（J R住吉駅下車すぐ）

出演：甲陽学院高等学校アンサンブル部

甲陽学院高等学校アンサンブル部 O B バンド

曲目：D. ミヨー／フランス組曲

プスタ／ヤン・ヴァン・デル・ロースト

グレン・ミラー メドレー 他

入場無料

第一部は現役生、第二部は O B バンドによるステージで、第三部は現役生と O B が合同で演奏します。

O B も多数出演予定です。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

硬式庭球部OB会開催のご案内

日 時：平成22年10月15日（金）

テニスプレー 午後 1 時～

懇親会 午後 5 時～

場 所：テニスプレー 芦屋公園テニスコート

（芦屋国際ローンテニスクラブ内）

芦屋市松浜町4-4 0797-22-3852

懇親会 ヴァーデン・ガーデン（テニスコート横）

芦屋市松浜町5-22 0797-22-8251

発起人：善野史郎（33回生）北村彬（35回生）

世話人：吉田雍一（37回生） TEL/FAX 0797-22-1842

参加ご希望の方は 8 月30日迄に世話人までご連絡下さい。

第6回 同窓会ゴルフ 報告

4 月18日（日）「武庫の台ゴルフコース」で第 6 回同窓会ゴルフコンペが 9 組33名参加の下行われました。

当日は前回同様天候に恵まれ、若い50回～67回から10名の参加があり、盛り上がりしました。

優勝は大山司君（56回）76（ベスグロ）、2 位喜安洋三君（60回）79、3 位は綿谷卓君（60回）78でした。今回は中山裕雄君（60回）の提案で始球式为平田会長にお願いし、故中村校長のご冥福を祈り全員で黙祷しました。前回同様クラブからキャデバグとボールの寄贈を受け、直前にキャンセルされた方々から商品券の寄贈があり、特別の賞を配ることが出来ました。



（上 写真は平田会長）

何と言っても今回の象徴は上位 3 人の70台のスコアでした。長老平田会長からも「若い人達のパワーの凄さに感心した」との感想を頂きました。世話係としては更なる参加者の増加を期待しております。次回世話役は大山司、早川博（35回）両氏です。

中村貞三（35）記



次回第7回同窓会コンペご案内

10月24日（日）「武庫の台ゴルフコース」

※ 8 時30分集合 9 時アウト・イン分かれてスタート
 ※ プレーフィー ￥15,000（昼食代参加賞ボール含む）

※ 懇親会費 ￥3,000

※ 賞品は各自お家で眠っている￥3,000相当の品物をご持参下さい。

10組40名満ち次第締め切り

参加申し込みは下記の何れかへ締め切り10月10日

中村貞三（35回） TEL&FAX 072-777-1009

Eメール teisan@d4.dion.ne.jp

夏の会員総会

『21世紀の大学が目指すもの、求めるもの』

—西田正吾大阪大学理事・副学長を迎えて— 8月28日(土) 14時～17時30分 於:ノホテル甲子園

今年度の会員総会は下のような要領にて開催いたします。同窓の友人、知人お誘い合わせの上、ふるってご参加下さい。ご家族同伴も歓迎です。

■第1部 式典と講演会

演題 「21世紀の大学が目指すもの、求めるもの」

講師 西田正吾氏(51回)

大阪大学理事・副学長



6年前に法人化された国立大学は、今年3月で第一期の中期目標、計画期間が終わって、この4月からは第二期6年の中期目標、計画に入ったところ。はたして大阪大学をはじめとする国立大学では、これまでの6年間で何が変わり、また、どのような課題が生じ、そして今後どのような方向を目指して行こうとしているのか。

この問題を直に担当する立場から、国立大学に加え日本の大学の教員、学生の現況、産学連携の前向きな推進の必要性など、今後あるべき大学の方向について語っていただきます。＜プロフィール＞

兵庫県宝塚市出身、昭和45年甲陽学院高等学校卒業、担任は中学が国語の村上千秋先生、高校が物理の中島博先生。クラブ活動は生物部に所属して蝶々を追いかけていたそうです。

昭和49年東京大学工学部電子工学科卒業、昭和51年東京大学大学院修士課程修了、同年三菱電機に入社し、中央研究所システム基礎研究部の研究員として専ら関西電力、東京電力と共同して電力系統の安定化制御を研究されました。

昭和59～60年、マサチューセッツ工科大学客員研究員として渡米、以降、人にとって使いやすいコンピューターを考えるシステム技術、ヒューマンインターフェース技術、メディア技術の研究に従事し、グループマネージャーを経て、平成7年大阪大学基礎工学部システム工学科教授に就任。民間から国立大学へという極めて数少ないコースを歩み、現在、理事・副学長をつとめておられます。

電気学会業績賞、船井情報科学振興賞等を受賞、工学博士。著書に『ヒューマン・コンピューター交流技術』(オーム社)、『メディア工学』(朝倉書店)など。

趣味は今でも蝶々の標本コレクションで、海外出張には網を持って行くそうです。

■第2部 懇親会

ご寄贈いただいた白鹿のお酒とサントリーのビール・ウイスキー・ソフトドリンクを味わいながら、恩師・旧友あい集い、楽しいひとときをお過ごしください。

卒業後50年の41回生、卒業後35年の56回生、卒業後25年の66回生の皆さんは、今回ホームカミングデーです。ささやかですが記念品(母校校章ストラップ)を用意しておりますので、ふるってご参加下さい。

司会は、今年もNHKアナウンサー真下 貴氏(69回)です。

information

日 時 平成22年8月28日(土)
第1部 14時～15時45分
第2部 16時～17時30分

会 場 ノホテル甲子園(旧甲子園都ホテル)
TEL 0798-48-1111

会 費 一般会員 5500円(当日会費)
学生会員 2000円(当日会費)
同伴家族 2000円(当日会費)
新卒者(平成22年3月卒) 無料

※母校への問合せはご遠慮下さい。

申込方法

同封の振込用紙で、8月18日(水)までに会費をお振込み下さい。あるいは8月23日(月)までに事務局まで参加のご予約を下さい(葉書、電話、FAX、Eメール)。この場合は特別割引として、一般会員5000円、学生会員・同伴家族は1500円とさせていただきます。

問合せ先

甲陽学院同窓会事務局
〒662-0096 西宮市角石町3-138
TEL 0798-71-4888(月・水・木・金) 10時～16時
(8月12日～19日は母校夏期閉鎖期間につき不在)
FAX 0798-71-4890
Eメール fvgrp1650@mb.infoweb.ne.jp

☆当日の料理・名札等の準備がありますので、できるだけ事前振込ご予約をお願いいたします。

☆まだまだ暑い折ですので、当日はカジュアルな服装でご参加いただいて結構です。

☆平成15年の役員総会の決議により、新卒者以外の無料会員の制度が廃止になりました。

上記の会費にて運営いたしたく、よろしくご了承下さいますようお願い申し上げます。



Superbly located for business or pleasure.

www.novotelkoshien.com

西宮市甲子園高潮町3-30 TEL.0798-48-1111



ノホテル甲子園



▶ A worldwide leader in hotels, tourism and services